

病害虫発生予報 第2号

(向こう1ヶ月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並	並	
	さび病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並～やや多	やや早	
水稻	ニカメイチュウ	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ(黄萎病)	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並～やや少	並	
	イネミズゾウムシ	全域	並	並～やや遅	
りんご	黒星病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	黒点病	全域	並	並	
	赤星病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並		
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並～やや多	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
アブラムシ類	全域	並	並		
なし	黒斑病	全域	やや少	並	
	黒星病	全域	並	並	
	赤星病	全域	並	並	
	枝幹性病害(胴枯病)	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並～やや多	並～やや早	

	モモシンクイガ	全域	並	並		
	クワコナカイガラムシ	全域	並	並		
	アブラムシ類	全域	並	やや早		
もも	黒星病	全域	並	並		
	せん孔細菌病	全域	並～やや多	並		
	モモハモグリガ	全域	並	並		
	アブラムシ類	全域	並	並		
	カメムシ類	全域	並	並		
	シンクイムシ類	全域	並	並		
ぶどう	ハマキムシ類	全域	並	並		
	灰色かび病	全域	並	並		
	べと病	全域	並	並		
	黒とう病	全域	並	並		
トマト	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並		
	葉かび病	全域	並	並		
	きゅうり	べと病	全域	並	並	
		施設果菜類	灰色かび病	全域	並	並
うどんこ病		全域	並	並		
アブラナ科野菜	アザミウマ・アブラムシ類	全域	並～やや多	並		
	オンシツコナジラミ	全域	並	並		
	黒斑細菌病	全域	並	並		
レタス	コナガ	全域	並～やや多	並		
	斑点細菌病	全域	並	並		
アスパラガス	腐敗病・すそ枯病	全域	並	並		
	灰色かび病・菌核病	全域	並	並		
たまねぎ	茎枯病	全域	並	並		
	ジュウシホシクビナガハムシ	全域	並	並		
野菜花き全般	べと病	全域	並	並		
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並		
	ハモグリバエ類	全域	並	並		
	オオタバコガ	全域	並	並		

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや発生中のものを示す。

II 向こう1か月の気象予報（長野気象台 5月14日発表）

1 予想される向こう1ヶ月の天候（5月16日～6月15日）

天気は数日の周期で変わるでしょう。

2 向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	30	40	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

3 予報の根拠にかかる気象要因

(+) は発生を増加させる要因、(-) は発生を減少させる要因を示す。

III 麦

1 赤かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期（感染時期）：平年並
(2) 予報の根拠
① 5月上旬現在、生育はほぼ平年並である。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 最も感染しやすい開花期に防除を行う。
② 開花期間に降雨があるなど、多発が予想される場合には、第1回防除（開花期）から10～14日後に追加防除を行う。
③ 今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

2 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 5月上旬現在、生育はほぼ平年並である。
② 5月上旬の巡回調査で、一部のほ場で発生がみられている。
③ 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 発病初期及び出穂期を中心に防除を行う。

3 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：やや早
(2) 予報の根拠
① 5月上旬の巡回調査で、一部の地域で発生が多い。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 発病初期及び出穂期を中心に防除を行う。

IV 水稻

1 ニカメイチュウ（第1世代幼虫）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 前年、一部の地域で発生が目立った。
② 須坂市及び小布施町のフェロモントラップでは、5月2半旬まで誘殺は確認されていない。
(3) 防除上の留意点
① 5月下旬以降の移植であれば、苗箱施薬剤の処理効果は高い。前年、被害が発生した地域では、苗箱施薬剤にニカメイチュウにも効果のある薬剤を用いる。薬剤は「令和2年農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」と略す。）を参考に選択する。
② 本田防除を行う場合、第1世代幼虫防除適期は越冬世代成虫の発蛾最盛期（北信地域の平年は6月第2半旬）の10～15日後である。

2 ツマグロヨコバイ第1回成虫（黄萎病）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 前年、一部のほ場で発生が多かった。
② 4月の吹き出し調査では、捕獲虫数は平年に比べて少なかった。
(3) 防除上の留意点
① 黄萎病の発生の恐れのある地域では、「県防除基準」を参考にツマグロヨコバイに効果の高い苗箱施薬剤を選択する。

3 イネドロオウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 前年の発生は常発地を除くとやや少なく、越冬量はやや少ないと推察される。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 発生期間が長引く場合は、苗箱施薬を実施していても本田防除を検討する。

4 イネミズゾウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや遅
(2) 予報の根拠
① 前年の発生は、一部発生の多いほ場を除き、平年並～少なかった。
② アメダスの気温データから計算した越冬地からの半数脱出推定時期は、平年並～やや遅い予測となっている（5月13日現在）。
(3) 防除上の留意点
① 苗箱施薬をしても発生の多い場合は、本田防除を検討する。

- ② 本田における要防除密度は、成苗で株当たり成虫1頭、中苗で0.7頭、稚苗で0.4頭である。
- ③ 湛水直播栽培では被害が大きくなりやすいので、多発地域では発芽直後から発生に注意する。

V りんご

1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 子のう胞子の飛散のピークは4月下旬とみられる。
 - ② 生育は平年並みで推移している。
 - ③ 気象要因 向こう1ヶ月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、薬剤の選定にあたっては「県防除基準」を参照する。
 - ② 5月7日に果樹試験場内で初発が確認された。5月下旬までの防除が重要であるので、防除間隔をあげないように、また、降雨前散布となるように薬剤散布をおこなう。

2 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査では平年より発生は少なかったが、5月上旬は降水量が少なく感染に好適な条件となったと推察される。
 - ② 気象要因 向こう1ヶ月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① ほ場内をよく点検し、被害花そうを早期に切除して土中に埋める。
 - ② 発生が多い場合は防除効果の高い農薬を散布する。

3 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 伝染源量は平年並とみられる。
- (3) 防除上の留意点
- ① 防除の間隔をあげすぎないようにする。

4 黒点病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 伝染源量は平年並とみられる。
- (3) 防除上の留意点
- ① 防除の間隔をあげすぎないようにする。

5 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 伝染源量は平年並とみられる。
- (3) 防除上の留意点
- ① 防除の間隔をあげすぎないようにする。

6 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査で胴腐らん、枝腐らんの発生が目立つほ場がある。
 - ② 近年、発生量がやや多めに経過している。
- (3) 防除上の留意点
- ① 早期発見に努め、病斑の除去を徹底して行う。
 - ② 病斑の削り取り後は必ず塗布剤を処理する。
 - ③ 枝幹部にも薬剤が十分かかるように散布する。

7 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬卵量は、全般に少ない傾向である。
 - ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。
 - ② 散布むらが生じないようにする。

8 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬成虫量は、全般に平年並と推測される。
 - ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。
 - ② 散布むらが生じないようにする。

9 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺が、一部の地域で多く見られている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して防除する。

10 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬幼虫の発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
- ② 発生時期を把握し、遅れないように防除する。
- ③ 交信攪乱剤を利用する場合は遅れないように設置する。

11 ナシヒメシクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬幼虫量は、平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 芯折れの被害枝は、切除して焼却する。
- ② 6月に「芯折れ症状」が多い場合は、第2世代幼虫の防除を徹底する。
- ③ 産卵ピーク時期には、薬剤の散布間隔を2週間以上あけないようにする。

12 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 巡回調査で、寄生葉が散見された。

(3) 防除上の留意点

- ① 葉が捲いてからでは十分な防除効果が得られないので、発生初期の薬剤散布を心がける。剤によっては蚕毒が強いものがあるので注意する。

VI なし

1 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：**やや少** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査および県予察ほどの発生は、みられていない。
- ② 伝染源となる胞子の形成時期はやや早く、飛散時期・飛散量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 「二十世紀」、「南水」では袋掛けまでの防除を徹底する。袋掛けは生育にあわせ遅れないよう実施する。袋掛け前に必ず殺菌剤を散布する。防除間隔をあけすぎないようにする。
- ② 発生園では下草刈り、防風ネットの一時除去など園地環境を改善する。発病果は見つけ次第、除去する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回ほ場での発生はみられていない。5月15日に県予察ほどの発生がみられ

ている。

② 子のう胞子の飛散時期は平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① 定期的に薬剤散布を行い防除する。特に、常発園では受粉樹の防除も行う。
- ② 薬剤散布は、散布むらがないよう丁寧に行う。
- ③ 罹病果、罹病葉は見つけ次第、切除し焼却か埋却する。
- ④ 前年発生が多かった園地、開花期前後の防除間隔があいた園地では、発生状況を調べ、今後の果実感染を予防する対策を講ずる。

3 赤星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 巡回調査ほでは発生がみられていない。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生が多い場合は、近隣に伝染源となるビャクシン類が存在する場合はあるの

で、可能であれば伐採する。

4 枝幹性病害（胴枯病）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 巡回調査ほでは発生はみられていない。

(3) 防除上の留意点

- ① 枯死枝はせん除する。主幹部の病斑は除去し塗布剤を塗る。
- ② 凍霜害を受けた園地では、降雨時に感染が拡大する場合がありますので注意する。
- ③ 胴枯病菌は「幸水」に心腐れ症状を起こす。

5 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬卵量は冬芽の調査でやや多い寄生であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生の多い場合は殺ダニ剤を散布する。
- ② 散布むらが生じないようにする。

6 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬成虫量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生状況を確認して密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
- ② 散布むらが生じないようにする。

7 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬幼虫量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生時期を把握し遅れないように防除する。
- ② 交信かく乱剤の利用は発生状況を確認し、遅れないように設置する。

8 ナシヒメシクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並～やや早**

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほのフェロモントラップでは平年並の誘殺であったが、昨年に比べてやや多く誘殺されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 6月に「心折れ症状」が多い場合は、第2世代幼虫の防除を徹底する。
- ② 産卵ピーク時期には散布間隔を2週間以上あげないようにする。

9 モモシクイガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 越冬幼虫量は平年並であったと推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 産卵ピーク時期に散布間隔を2週間以上あげないようにする。

10 クワコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 有効積算温度による越冬卵のふ化完了予測日は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 多発地域ではふ化初期から有機リン剤など効果の高い殺虫剤を2週間間隔で2～3回散布する。
- ② アブロード水和剤は散布時期が遅れると十分な効果が得られない。

11 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の発生量は平年並であった。
- ② 巡回調査ほ1か所においてワタアブラムシの発生がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 主要発生種のワタアブラムシは、有機リン剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低い場合があるので注意する。
- ② 葉が捲いてからでは十分な防除効果が得られないので、発生初期の防除を心がける。
- ③ 葉が捲いている場合は、ネオニコチノイド系薬剤を散布する。

Ⅶ もも（ネクタリンを除く）

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 近年、発生が少ない傾向である。

(3) 防除上の留意点

- ① 5月中下旬～6月に登録のある殺菌剤を散布する。剤によっては高温時に散布すると薬害が発生する恐れがあるので注意する。

2 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 春型枝病斑の発生率は、昨年及び平年より高い。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 農薬登録のある抗生物質剤等を選択し、散布する（使用時期に注意）。
- ② 抗生物質剤の中には満開約30～14日前の有核ぶどうにかかると種なし果を生じさせるものがあるので注意する。
- ③ 春型枝病斑は、見つけ次第切除し埋却処分等を行う。

3 モモハモグリガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺時期は平年並である。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
- ② 食入幼虫が多い場合は有機リン剤を選択し散布する。

4 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査ほでは発生がみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

5 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップの誘殺数は平年並みである。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生園では、落花10日後以降登録のある殺虫剤を散布する。

6 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップの誘殺数が、一部の地域で多く見られている。

(3) 防除上の留意点

- ① 芯折れ被害を見つけたら、切除して焼却する。

7 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 越冬幼虫量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
① 発生が多いところでは、農薬登録のある殺虫剤を散布する。
② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

VIII ぶどう

1 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 越冬伝染源量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従って薬剤を選択し、開花期前後に防除する。
② 薬剤耐性菌の出現防止のために同一系統剤を連用しない。
③ 花かす落としを励行し、被害花房、果房は見つけ次第除去する。

2 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 昨年の発生は、やや多かった。
② 気象要因 向こう1ヶ月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従って防除する。
② 散布間隔をあけすぎず、早期の袋かけを心がける。
③ 薬剤耐性菌の出現防止のために同一系統剤を連用しない。

3 黒とう病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 昨年の発生は、少なかった。
② 気象要因 向こう1ヶ月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従って防除する。
② 散布間隔をあけすぎず、発生が見られたら早期の袋かけを心がける。

4 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 越冬虫量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
① 開花期前後に防除を実施する。
② 薬剤の種類や散布時期によって果粉溶脱や果粒にサビを生じるものがあるの

で注意する。

IX 野菜

1 施設果菜類（トマト）の葉かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 5月上旬の巡回調査では、一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
(3) 防除上の留意点
① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除を行う。
② 多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって湿度低下に努める。

2 施設果菜類（きゅうり）のべと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
(3) 防除上の留意点
① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除を行う。
② 降雨や灌水時の地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
③ 強度の摘心、着果過多、あるいは肥料切れなどによる草勢の衰えは発病を助長するので適正な栽培管理を行う。

3 施設果菜類（きゅうり、トマト等）の灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
(3) 防除上の留意点
① 昼夜の温度差が大きくなり、結露量が増えると発生しやすくなる。
② 施設内の換気を十分行い、除湿を図る。除湿機の利用は、ハウス内の湿度上昇抑制に有効である。
③ 発病葉、発病果は見つけ次第除去する。
④ 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。

4 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 5月上旬の巡回調査では、きゅうりの一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考に薬剤を選択し、7～10日間隔で2～3回薬剤防除を行う。その後は発生状況に応じて適宜防除する。多発してからの薬剤防除は効果が低い。
- ② 同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用する。
- ③ 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

5 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類・アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、きゅうりの一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 定植時から粒剤処理を実施し、生育期間は「県防除基準」を参考に薬剤を選択して散布する。
 - ② 日中の気温上昇で側窓を解放する場合は、飛び込みに注意する。

6 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のオンシツコナジラミ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、寄生はみられなかった。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 定植時から粒剤処理を実施し、生育期間は「県防除基準」を参考に薬剤を選択して散布する。
 - ② 日中の気温上昇で側窓を解放する場合は、飛び込みに注意する。

7 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① アブラナ科野菜の連作は避ける。
 - ② 品種間差が大きいので、品種選定に留意する。
 - ③ 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。
 - ④ 発病茎葉は二次伝染源となるので早期に除去する。

8 アブラナ科野菜のコナガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、被害はみられなかった。
 - ② フェロモントラップによる調査では、塩尻市宗賀及び小諸市山浦(いずれも県発生予察ほ)等で、誘殺数が増加傾向にある。

- ③ 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。
 - ② 同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用する。

9 レタスの斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。
 - ② ナモグリバエの吸汁産卵痕から感染しやすいので、ナモグリバエの発生が多い場合には注意する。

10 レタス腐敗病・すそ枯病・灰色かび病・菌核病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 凍霜害の被害があったほ場では低温性の腐敗病、灰色かび病、菌核病が発生するおそれがあり、また結球期のレタスは、結球が進んだものほど低温等の影響を受けやすく、以後の天候によっては被害部から腐敗性病害が発生することがあるので注意する。
 - ② 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。

11 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 春収穫後の残茎に発生がある場合は、伝染源になるので早期に処分する。
 - ② 散布間隔を短縮して立茎時に重点防除すると、茎枯病の予防に効果が高い。
 - ③ 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。
 - ④ 同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用する。
 - ⑤ 土寄せ、敷きわら等で土壌からの病原菌の跳ね上がりを防ぐ。

12 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月上旬の巡回調査では、発生がみられなかったが、一部中山間地域のほ場で発生がみられている。
 - ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① 山際のは場や前年に多発したほ場で発生が多い。
- ② 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。

13 タマネギベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、一部のほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① 気温が15℃程度で雲雨天が続くと多発する。
- ② 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。
- ③ 発病茎葉は二次伝染源となるので早期に除去する。

14 アブラムシ類（野菜・花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 黄色粘着トラップへの誘殺数が一部で増加している。
- ② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① シルバーストライプマルチを利用すると、有翅虫の飛来忌避効果が高い。
- ② は種または定植時に粒剤を施用すると、初期の発生を少なくすることができる。

15 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、寄生がみられなかったが、一部中信地域のねぎほ場でみられている。

② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① 育苗期から防除を徹底し、無寄生苗を定植する。
- ② 定植前または定植当日に粒剤を処理する。
- ③ 生育期は、成虫の発生状況や吸汁産卵痕をよく観察し、防除が遅れないように注意する。

16 オオタバコガ（野菜・花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップ調査結果は、小諸市（県発生予察ほ）では5月第1半旬、下伊那郡豊丘村（地区発生予察ほ）では4月第6半旬に初誘殺された。また、南信地域のその他の調査地点におけるフェロモントラップ調査でも、5月第1半旬から誘殺されている。なお、5月第2半旬現在、塩尻市（県発生予察ほ）では誘殺されていない。

② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考に薬剤を選択して防除する。
- ② 系統の違う薬剤を、ローテーションしながら散布する。
- ③ 結球野菜では、結球始期を中心に1週間間隔で2～3回防除を行う。